

平成 27 年度研究大学強化促進事業外部評価委員会意見書まとめ

A:優れている

B:良好である

C:不十分である

1. RU事業の活動について

評価内容	評価	評価者氏名	コメント
(1)計画に沿った活動状況であるかについて	A	評価者：A	領域性の導入は医科歯科ならではの取り組みである。医・歯・その他の部局の教目が共同することによってより質の高い教育・研究活動が期待できる。
	A	評価者：B	概ね計画どおり順調に活動なされていると評価される。
	A	評価者：C	施策実行のスピード感がすばらしい。
	A	評価者：D	URAの充実が目立つ。
	A	評価者：E	構想調書の内容を順調に実現・制度化している。
	A	評価者：F	計画に沿って順調に進んでいる。
(2)平成 25 年度外部評価にて指摘した内容が改善されているかについて	A	評価者：A	国際化については必ずしも大幅に改善したとは言えないが、無理のない範囲で進められており（外国人職員の採用など）適切であると思われる。外国人職員の採用については無理のない範囲で進めた方がよい。
	B	評価者：B	URAについては産学連携の充実、医療系URAの提案および実質的な臨床研究対策等発展ぶりが伺える。
	B	評価者：C	概ね対応いただいていると評価。国際交流、共著論文などまだ少し残っているのでBとした。
	B	評価者：D	女性研究者の活用状況がうまく伝わらなかった。
	A	評価者：E	
(3)事業活動の進捗状況等について（全般的評価）	A	評価者：A	それぞれの事業活動について、綿密に事業が進められている。URAの活動が有効に機能していると思われる。
	A	評価者：B	全体として素晴らしい進捗ぶりと思われる。
	A	評価者：C	研究特別手当、領域別、ファシリティサポートセンター、強みのある教員、テーマに対する特別チーム化、産学連携指標に基づく改革などいくつも特筆すべき活動がある。
	A	評価者：D	非常に順調に進んでいる。
	A	評価者：E	特筆すべき進捗状況である。

	A	評価者：F	PDC Aサイクルがうまく動いていることがわかる。
--	---	-------	---------------------------

2. URAについて

評価	評価者氏名	コメント
A	評価者：A	適切である。よく機能していると思われる。
B	評価者：B	医療系UR Aと臨床研究支援人材はイコールか？後者に求められる種々の specialist（データマネージャー、モニタリング人材）を集めにくくないか？
A	評価者：C	UR Aの性格づけがきちんとしていることを評価。
A	評価者：D	研究力強化ブランチ（インパクトの高い学術論文を多く発表する）の観点から分析・伸ばす方策がやや不明。
A	評価者：E	目的に沿った多様な人材を採用し、目的に沿った活動がされている。
A	評価者：F	十分に結果が上がる配置である。

3. URAの活動について

評価内容	評価	評価者氏名	コメント
(1)研究費獲得ブランチの活動・実績について	A	評価者：A	有効に研究費を獲得していると思われる。採択率は重要であるが、まずは申請をすることが重要で細かい指導をしている点は評価できる。
	A	評価者：B	特に若手の採択率アップにつながるような活動、実績は評価される。
	B	評価者：C	学内啓発の段階ということなのでBとした。
	A	評価者：D	
	A	評価者：E	研究費獲得に向けた分析活動が緻密に行われていると評価される。
	A	評価者：F	今後の実績に期待する。
(2)研究強化ブランチの活動・実績について	A	評価者：A	倫理教育など、研究全体の教育活動を積極的に行っており、他の大学にも模範となる活動である。
	B	評価者：B	全体として数値のアップは見えてきつつあるが、売りとなるスタープレイヤーがもっと現れてくるといい。
	A	評価者：C	全体に目標、活動、実績がかみあっているとの印象を受けた。科研費の件数だけでなく金額もあげればなお良いと思う。
	B	評価者：D	研究力強化ブランチ（インパクトの高い学術論文を多く発表する）の観点から分析・伸ばす方策がやや不明。（「2」と同じ）
	A	評価者：E	順調に進捗している評価できる。

	A	評価者：F	若手以外の研究力強化の方策を考えていただきたい。
(3)先進医療展開部ランチの活動・実績について	A	評価者：A	
	A	評価者：B	医師主導治験の開始、核酸医薬ベンチャーの創立は特筆される
	A	評価者：C	大学につけていることで、非常に成果が見えやすくなっていると思う。
	A	評価者：D	官からの人材（教授）が上手に方向付けをされているのびる要素を感じた。
	A	評価者：E	推進センターを制度化し、ワンストップの支援体制を構築している点は大いに評価できる。今後評価指標の構築を含めて活動に期待しています。
	A	評価者：F	順調に進んでいるため、今後の実績に期待したい。

4. 広報活動について

評価	評価者氏名	コメント
A	評価者：A	科学新聞における広報は大きなインパクトがあった。全体に統合・協力した形での広報はTMDUの知名度をあげるのので有効であろう。大学内の施設を使って国際シンポジウムを行うなどの試みを行ってはどうか。
A	評価者：B	国内外に対して大変よく広報活動がなされている。
A	評価者：C	国際シンポジウムなど評価。
A	評価者：D	科学新聞、Bloom など nice である。
A	評価者：E	
A	評価者：F	インパクトファイター以外の指標で広報すべき研究成果を考えていただきたい。

5. 研究者情報・IRについて

評価	評価者氏名	コメント
A	評価者：A	学長のガバナンスがよくきいている。このまま進めばよいのではないか。
A	評価者：B	RU採択前からの一貫したIR活動が光っている。
A	評価者：C	研究不正、リスクマネジメント、IRを使った大学改革へのURAの参画などを評価。
	評価者：D	
	評価者：E	

A	評価者：F	適正な研究者配置に結びつくようなIRの使い方を考慮していただきたい。
---	-------	------------------------------------

6. その他、お気づきの点

評価者氏名	コメント
評価者：A	<ul style="list-style-type: none"> ・引用が少ない点については、内部で自分たちの論文をもっと引用するように進めてはどうか（日本人はそうしたことが特に苦手であるので）。 ・外国人教員は半年単位で教育に関する特任教員を招くなどを試みてはどうか。外国人教員が増えると結果として日常業務が日本人教員に負担がかかるのではないか。 ・産学連携の成功は他の大学にとっても大きな刺激となると思われる。是非とも継続して支援してほしい。 ・卓越研究員などの新規の文科省の制度への対応は？
評価者：B	Mission-oriented な領域制の導入は将来に資する取り組みと考えられる。
評価者：C	<ul style="list-style-type: none"> ・全体のアウトカムについての指標、URA各ブランチの活動の成果もしっかりモニターして打出すと総合的に受け止めやすい。 ・「弱みをつぶす」から「強みをのばす」活動も積極的に取り込んでいくとよい。 ・まだ国際共同研究的な部分をのばす余地があると思う。
評価者：D	概ね、順調に推移している。Visionがあって、それに向けた戦略を立て、取り組みが身体的に進んでいる様子を見とれた。
評価者：E	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究力強化のための制度改革、組織体制作りを全学規模かつ迅速に実行している。 「研究力強化のための大学改革」を実現する大学ガバナンスとなっている点が大いに注目される。今後ともかかる研究力強化を実行するガバナンスを維持強化されることを期待にする。 2. 1と関連するが、領域制、研究特別手当等々研究力強化の取り組みを制度化し実現しているところが大いに注目される。 3. 医学系URAの機能をよく分析し、特に先進医療展開ブランチを設けている。先進医療展開のための諸機能をワンストップ化し、高い研究支援機能を実現しているところが特筆すべき取り組みでもある。 4. 先進医療展開ブランチのURAのパフォーマンス評価について、推進に有意義な評価指標を構築されることを期待している。
評価者：F	